



令和6年度 第40回 卒業証書授与式

学校長 式辞

頬を伝わる風が和らぎ、ここ青山も日ごとに春めいて参りました。

本日ここに、令和6年度、兵庫県立三木北高等学校第40回卒業証書授与式を挙行するにあたり、ご多用中にもかかわらず、三木市長仲田一彦様をはじめとするご来賓の皆様、多数の保護者の皆様のご臨席を賜りましたことを、心よりお礼申し上げます。

保護者の皆様には、立派に成長されたお子様の晴れの姿をご覧になり、今日までの日々を思い返し、胸を熱くされているのではないかと拝察いたします。

お子様のご卒業を心からお慶び申し上げます。

さて、40回生の皆さんは、今日の日を迎え、どのような思いが去来しているでしょうか。それぞれ思い浮かべるシーンは一人一人異なっているでしょう。私自身のことで恐縮ではありますが、私は、本校と同年に開校し、同年に閉校される県立高校の卒業生であります。今年度、縁あって同じ運命にある三木北高校に着任させて頂きました。本日ご出席されている皆様と同じく「閉校」が近づくことへの寂しさはとても感じられます。

それゆえに、着任にあたり、三木北高校の残り3年間では、三木北高校らしさを備えた、「自ら考え、行動できる人」として、社会で活躍できる人材を送り出したいと思い、先生方には授業を中心にさまざまな場面での実践をお願いしてきました。また、生徒の皆さんには式などの機会には、できる限りこの思いを語りかけて参りました。

本校には「立志」「自学」「自律」「共生」の4つの校訓がありますが、これらは、そのような人として活躍するための礎となるものだと考えます。私はその中で特に「立志」という言葉に強く惹かれています。

幕末に活躍した吉田松陰という方がいますが、彼がいとこの元服の際に贈った、「志を立てて もって 万事の源となす」ということばがあります。吉田松陰は松下村塾において明治国家の立役者となる人材を輩出いたしました。

それでは、彼が言う「立志」とはどのようなものなのでしょうか。

それは恐らく、短期間で実現してしまうようなことではなく、きっと、生涯通じて、追いつける、その人の生き方の中心となる考え方を指すのではないかと考えています。

志があれば、自ら学ぶ自学の精神が喚起され、目標に向けて自らを律することにもつながるでしょう。また、他者と協働して実現しようとする共

生の意識も自然に高まるのではないのでしょうか。

皆さんは、本校での3年間、地域貢献、国際理解、環境教育など、持続可能な社会の実現に向けて、様々なテーマで、課題を設定し、解決に取り組んで視野を広げてきました。

三木北高校での学びにより備わった見方や考え方を活かして、これからも地域社会や、さらに大きな場面で、自らが「やりたい」・「できる」という主体的な考えをもって、粘り強く取り組むことができる人となってくれることを願っています。

そうすれば、残された2つの学年の後輩たちも、きっとあとに続いてくれることでしょう。

終わりにになりますが、保護者の皆様には、今日まで本校にお寄せ頂きましたご理解、ご支援、ご協力に深く感謝いたします。

卒業生の皆さんの前途に「幸多からん」ことを心から祈念いたしまして式辞といたします。

令和7年3月1日

兵庫県立三木北高等学校 校長

吉田 真治

